

台風通過後の営農技術対策

平成29年 9月19日
北海道農政部

9月18日に本道に上陸した台風第18号がもたらした大雨と暴風により、ほ場の浸水・冠水や施設の破損、停電等が発生しています。

今後の気象情報に注意しつつ、次により被害の軽減に努めてください。特に、収穫期においては、今後の排水対策が農作物の収量や品質の低下を回避させるとともに、的確かつ効率的な農作業を進めるために重要となりますので、速やかに対策を講じてください。

ただし、河川の水位は、降雨後に上昇することがあるので、気象台や河川管理者が出す最新の情報に注意し、不用意に河川には近づかないでください。

札幌管区気象台ホームページ <http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>

台風通過後の注意項目

- 1 滞水ほ場では、排水対策を行い、ほ場乾燥を促す。
- 2 殺菌剤の散布は、収穫前の使用期限を遵守する。
- 3 あせりからくる農作業事故に注意する。

第1 共通事項

- 1 大雨により浸水・冠水したほ場や滞水しているほ場では、溝切りなどの排水対策を実施するとともに、明渠や排水溝の排水状況を確認する。土砂が流入している場合は、可能な限り速やかに土砂等を取り除き、乾燥を促す。
- 2 農作物については、病害の発生に注意する。特に、収穫時期が近づいている作物に殺菌剤等の薬剤を使用するときは、収穫前の使用期限に注意し、ラベルに記載されている使用基準や注意事項を遵守するとともに、隣接する他の作物に薬剤がドリフト（目的外飛散）しないよう注意する。
- 3 降雨後のほ場確認は、単独での行動を避ける。また、道路では路肩が、ほ場ではのり面や周辺の地盤が緩んだり滑りやすくなっている場合があるので、車両の走行は速度を落とし十分注意する。
- 4 冠水・浸水の被害を受けた農作業機械・設備、自動車等は、販売店等に依頼して早急に動作確認を行う。水抜きができていない状態でエンジンを始動したり、電源を入れたりすると、重大な故障や事故につながる恐れがあるので、注意する。特に電子基板が入っている機械ではショートにより部品の全交換が必要となったり、作業機ではブレーキに泥が入り、効かないことがあるので注意する。

第2 水 稲

- 1 浸水・冠水した水田は、速やかに排水口の解放や畦畔を切る等の排水対策を行う。
- 2 泥流や土砂が流れ込んだ水田では、溝切りや明きよを施工し、土壤の乾燥を図る。
- 3 倒伏したところは、茎葉のムレや腐敗、穂発芽が発生しないよう、密に溝切りを行い土壤の乾燥に努める。
- 4 冠水した穂や止葉に泥が付着している場合は、可能であれば、防除機（鉄砲ノズル）の水量を多くして洗浄する。
- 5 崩れた畦畔や土砂で埋没した用排水路・水口は、水が引いた後、速やかに改修、補修する。また、用排水路の草刈り及び水路内のゴミ上げを行い水の流れを確保する。
- 6 ほ場内に流入した異物は、収穫作業等に支障がないよう、ほ場の外に除去する。
- 7 浸水・冠水及び倒伏した稲は、別刈りとし、品質の低下を防ぐ。

第3 畑 作

- 1 表面水
浸水・冠水したほ場や滞水しているほ場では、溝切りなどの排水対策を行う。
- 2 ばれいしょは、浸水・冠水により塊茎腐敗が著しく増加するので、早急に排水対策を行う。ほ場が乾燥したら晴天の日に来るだけ早く収穫する。収穫後は十分風乾し、傷・打撲・腐敗・罹病いもを確実に選別して出荷する。強風による茎葉の折損や降水量が多かった地域では、軟腐病の発生に注意する。

第4 野 菜

- 1 ハウス内土壤の乾燥を促進するため、ハウス周辺の溝掘りやハウス内通路部分の停滞水の除去、マルチフィルムのまくり上げを行う。さらにハウスの開閉をこまめに行い、ハウス内湿度の低下を図る。
- 2 施設野菜で被覆資材やアーチパイプに被害が発生した場合は、速やかに破損したハウスを補修を行う。施設内の作物に被害があった場合は、被害作物の除去、被害部の除去を行い、その後、病害防除を行う。
- 3 野菜類では、作物の傷ついた部分からの軟腐病の感染、また草勢低下と多湿条件の重なりから各種病害が多発する恐れがあるので、病虫害防除基準を遵守して薬剤散布を行う。この場合、薬剤散布日から収穫予定日までの日数、及び使用回数を遵守する。
- 4 土壤の過湿によって、だいこんの裂根や横しま症状、にんじんの裂根、キャベツの裂球等が多発する恐れがある。溝切りなど表面排水に努め、収穫期に達したものからできるだけ早く収穫するとともに、品質の劣悪なものが混入しないよう厳しく選別する。
- 5 にんじんは裂根以外にも土壤水分過多で、着色不良、軟腐病・根腐病の発生が多くなる。また肥料が流亡した場合は、黒葉枯病の発生も多くなる。さらに傾斜ほ場では土壤流亡により、青首の発生も多くなる。このため、土壤が流亡した場合は、ほ場乾燥後に培土を行い、黒葉枯病防除を行う。
- 6 たまねぎは、浸水・冠水により貯蔵腐敗（りん片腐敗病・灰色腐敗病）が発生し易いので、ほ場の表面排水対策を急ぎ、ほ場の乾燥を待ち防除を実施する。また、収穫前に罹病球を厳しく選別除去して製品への腐敗球の混入を避け、収穫後は雨が当たらないようにして、風通しの

良い場所で風乾をしっかりと行う。腐敗球は、ほ場外に搬出して埋設処理等を行う。

- 7 かぼちゃは、土壌過湿によっていわゆる「ガンベ」が発生する恐れがあるので、溝切りなど表面排水に努める。また、つる枯病が発生しやすい条件なので防除に努め、収穫後はキュアリングを徹底して、腐敗果実を出荷しないようにする。
- 8 ながねぎは、畝間の排水に努め、管理機が入れるようになったら軽く培土し、べと病・黒斑病の防除に努める。
- 9 ながいもの支柱が傾いた場合は、起こすように努める。特に採種ほではウイルス株の抜き取りが今後も必要なので、可能な限り起こす。多湿条件で褐色腐敗病や根腐病が発生しやすいので、収穫時の選別を厳しくし、罹病いもはほ場外へ持ち出して処分する。
- 10 ながいも、ごぼうのトレンチャー溝が陥没したほ場では、放置するとその後の降雨で雨水が集まり陥没が拡大し易くなるので、通路の土などで速やかに埋め戻しを行う。

第5 花 き

浸水・冠水の被害を受けた花きほ場は、破損ハウスの修繕や倒伏した花きの立て直し、迅速な排水対策と病害防除を実施し、品質低下を最小限にとどめる。また、出荷物については品質保持剤の適切な処理、及び適正な格付と検品を徹底する。

- 1 強風によりハウスが損傷した場合は、早急にパイプの修繕と被覆資材の補修や張り替えを行う。
- 2 土壌過湿の長期化による軟弱化や病害発生等による品質低下を回避するため、ハウス内外の停滞水の除去やマルチのまくり上げ、通風換気に努め、積極的に土壌乾燥化を図る。
- 3 強風による花きのなびきや倒伏が見られる場合は、曲がり軽減のため早急に支柱とフラワーネットの固定・調整を行う。茎葉や花蕾部に軽度の損傷を受けたものは、被害部を除去する。
- 4 過湿によって灰色かび病等の病害発生が多くなるので、早めに薬剤防除を実施する。薬剤散布ではハウス内が乾きにくいことが予想される場合は、くん煙剤を利用する。
- 5 収穫・出荷については、土壌水分が多いと採花後の水揚げが劣ることがあるので、品質保持剤処理には十分注意する。被害軽微で出荷する場合は、信用を損なわないよう適正な格付けと検品の徹底に努める。
- 6 トルコギキョウやダリアなどの栽培に係る電照・補光関連施設（電球、タイマー等）については、通電後は速やかに作動状況の点検を行う。

第6 果 樹

- 1 園地に土砂が流入した場合は、根の分布域を優先して除去し、乾燥後浅く中耕し、土壌の通気性、透水性の確保に努める。
- 2 落果実で生食用として出荷可能なものは、傷の程度により選別する。加工用も含め、果実が腐敗しないよう、速やかに冷蔵庫に搬入する。
- 3 落果実を販売する場合は、薬剤の最終散布日からの安全使用基準の収穫前日数を確認する。販売にあたっては、「落果品」であることを明示する。
- 4 落果実は、病害の発生や野生動物の餌になるので園地に放置したままにしない。
- 5 倒伏樹は速やかに起こし、土盛りして支柱にしっかりと固定する。
- 6 折損した枝は切り直し、癒合促進のため、切り口には塗布剤(ペースト)を塗布する。また、

大枝が裂けた場合は、ボルト、かすがい、縄などで傷口を接着する。

- 7 落葉が著しい場合は、残った葉と着果のバランスがとれるよう、枝ズレ、刺し傷など、傷みの激しい商品価値の低い果実を主体に摘果を行う。
- 8 ぶどうのハウスや棚等が破損・倒壊した場合は、速やかに補修する。
- 9 ぶどうの灰色かび病、べと病、プルーンの灰星病、りんごのすす点・すす斑病等、過湿による病害の発生に注意し、速やかに薬剤散布を行う。

第7 飼料作物

1 牧草

- (1) サイロ被覆資材（ロールパックの場合はラッピング等）の破損を確認し、認められた際には、ただちに補修する。
- (2) サイロ周辺やロールパック置き場が滞水した場合は、溝切りや水中ポンプにより速やかに排水する。

2 サイレージ用とうもろこし

- (1) 倒伏により土砂の付着がある場合は、収穫時の刈り取り高を調整する。また、サイロ周辺の環境を整備し、搬送・踏圧作業時の土砂混入防止を図る。
- (2) 倒伏した飼料用とうもろこしを牽引式ハーベスタで収穫する場合、畦と直角方向に倒れている時は、トラクタで茎葉を踏まないよう走行する方向を選択する。畦と水平に倒れている場合は、雄穂方向から収穫する向かい刈りを行う。

第8 畜舎等施設

- 1 土砂の付着した水槽や飼槽は、清浄な水で洗浄する。浸水した古い敷料は運び出し、床面、バークリーナの土砂を洗い流し、乾燥させる。
- 2 乾燥後速やかに床面に消石灰を散布し、新しい敷料を敷く。
- 3 パドックが滞水している場合は、速やかに排水するよう溝を掘り、乾燥を促す。

第9 酪農

停電解消後は、次を参考に対策に努める。

- 1 通電後は優先順位に従ってブレイカーを戻し、ミルカーなど電気を動力源とする機械が正常に作動するか速やかに点検する。
- 2 通電忘れがないか、再度確認する。
- 3 機器が正常に稼働することを確認できたら、直ちに搾乳する。ただし、前搾りを行い凝固物（通称ブツ）の有無を確認し、乳房炎が疑われる牛の生乳は出荷せず、ただちに獣医師の診断を受ける。
- 4 牛の体調を確認して、異常牛は速やかに獣医師の診察を受ける。

第10 農作業安全

- 1 降雨後で路肩が崩れやすくなっており、また地面がぬかるんだり、滑りやすい条件となるため、枕地や農道ではトラクタの走行速度を十分下げ、急ブレーキや急旋回を避けて作業を行う。また、足場が悪い場所では「転倒事故」に注意する。

- 2 トラクタやハーベスタなどの運転者と補助作業者の間で、事前に発進・停止などの合図を決めて、作業時に意志の疎通が図られるようにする。特に、旋回や後進する場合には周囲の安全確認を徹底する。また、作業員全員が機械の緊急停止を行えるよう停止方法の周知徹底を図る。